

■受賞のよろこび

私が装幀を手掛けた虎屋様著作の書籍が、このたび『日本図書館協会賞』と評価され、うれしく思います。緊張と責任ある仕事の機会を続けさせていただき、誠にありがとうございます。これからもひとつひとつの仕事を丁寧にデザインしてまいります。

■こだわったところ

●言葉にこだわる

漢字とかなの言葉に比べてカタカナ語は心との密着感が弱いので、自分の役割であるアートディレクションを「最適解を提案する」に、デザインは「美しく工夫する」に言い換えて、印刷を通して仕上がる情報伝達の仕事〔グラフィックデザイン〕をしています。

●本質にこだわる

本質は普遍性を生みます。仕事ごとの主題の中に本質があります。それを捉えるには対象の声を素直に聴くことが大切だと考えます。ちょうど、木が語る声を聴き、適材適所組み上げて普遍性を築く棟梁と同じように、無理なく自然に。ですから、私のデザインは、作るというよりも導かれるように仕上ってゆきます。

●アイデアにこだわる

本質は意外にもその姿を容易には見せないもので、それを見いだすことがアイデア〔本質への扉を開くこと〕だと考えています。

●書籍にこだわる

今回は、虎屋文庫皆様の17年以上にわたる取り組みを書籍化する、その装幀の仕事。読者に届いてからの時間の方が遥かに永い時を生きる、本は掛け替えのない物です。原稿を読み、皆様の意見を伺い、題名を大切に資料を吟味してゆくと、装幀を構成すべき素材対象が最適解を語り始める。書籍は小さな建築物であり検討箇所が多く、手触りの質感も重要です。装幀は図版・書体・色彩・用紙を検討し、吟味を重ね内容を凝縮して調和を大切に構成します。

●細部にこだわる

ジャケットは表・背・裏・袖をひとつに捉えつつも、各面単独での完成度を確認しながら、構図を検討します。メインビジュアルは川崎巨泉の木版画を採用。絵もエピソードも良く、虎屋様の菓子見本帖からの菓子絵を添え、テクスチャを感じる地色と共に整えました。書体の吟味に始まる文字の精度は必須です。題字等を2対3対4のサイズ比にしてリズムをつくりました。背は1行だけの完成度が勝負どころ。上製本ならではの細部、花布（はなぎれ）と 栞（しおり）は効かせどころです。そして表紙はジャケットのヴィジョンを継承しつつ、単独でも成り立つように整えました。帯も重要で、外したときのジャケットへの効果にも気をつけます。

和菓子づくりと同じく、ひとつひとつの細部と工程を丹念に制作します。

■ 上記に関わる画像

袖

表紙

背

裏表紙

袖



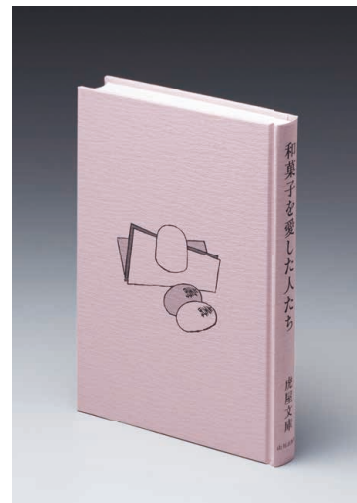
ジャケット — 和菓子を愛した人たち・著者の皆様・読者の気持ちになって、全体と部分を考慮しつつ、構成を検討した。



帯付きのジャケット — 書店で目にする状態。



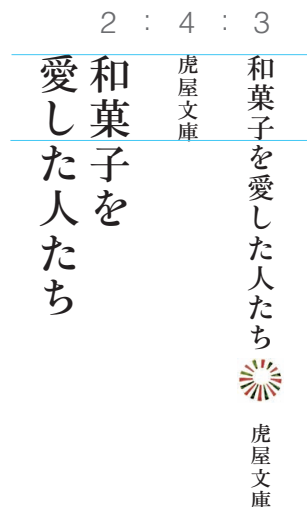
ジャケット — 帯を外したところ。



表紙 — 和紙的質感の紙に紅白饅頭の絵。



背の上部。花布(黄緑部)と 栞(桜色)。



題字の組みと大きさの比



化粧扉 — 絵の全体を用いた。右側は見返し裏。

■ プロフィール

東京生まれ。1976 年 田中一光デザイン室入社。1986 年 デザイン倶楽部設立 現在にいたる。2002 年より虎屋様の広告・パンフレット・カレンダー等のコミュニケーションデザインを担当。1997～2003 年 四日市大学環境情報学部教授。2007 年～ 多摩美術大学グラフィックデザイン学科教授。

主な受賞に、毎日広告デザイン賞奨励賞／ JAGDA 新人賞／メキシコ国際ポスタービエンナーレ銀賞／ニューヨーク ADC 銀賞・銅賞／ドイツ音楽出版賞審査員部門特別賞／ FCC Tokyo Ad Show 金賞／全国カレンダー展経済産業大臣賞・文部科学大臣賞／日本雑誌広告賞金賞・銀賞／消費者のためにあった広告コンクール銀賞・銅賞／ JAA 消費者が選んだ広告コンクールメダリスト／全国カタログ展国立印刷局理事長賞・フジサンケイビジネスアイ賞／東京 TDC 会員銀賞／東京 ADC 原弘賞・ADC 賞、など。